

所属	心理学研究科 臨床心理学専攻 修士課程	修了年度	2018 年度
氏名	宋 悠里	指導教員 (主査)	宇野 耕司

論文題目	青年期における愛着スタイルごとの愛着行動が主観的安全性に及ぼす影響
------	-----------------------------------

### 本文概要

**【問題と目的】** 中尾(2012)はこれまでの研究の前提とされてきた「成人愛着スタイルは成人の愛着行動パターンの違いを反映する」ということについて実証的研究を積み重ねている。愛着スタイルと愛着行動、愛着スタイルと安全欲求に関連があることが明らかになっている(中尾・加藤, 2006a; 中尾・加藤, 2006b)。しかし、愛着行動は安全欲求を充足させるため(主観的安全性を得るため)の行動であるが、愛着行動を行ったことによって安全欲求を充足できているかについての実証的研究はされていない。本研究では愛着スタイル(2次元・4分類)は愛着行動を媒介として主観的安全性に影響を与えるのかを検討することを目的とする。

**【方法】** **予備調査**安全欲求充足尺度の作成：大学生 57 名に無記名式質問紙調査を行った。ネガティブ感情喚起時に愛着行動を行うことによって得られる感情及び感覚を、中尾・加藤(2006a)の安全欲求尺度の一部を改変した 7 項目及び自由記述の形式を用いて回答を求めた。質問紙の構成は①愛着行動：中尾・加藤(2006b)の『成人愛着行動尺度(AABS: Adult Attachment Behavior Scale)』8 項目②主観的安全性：中尾(2006a)の『安全欲求尺度』の一部を改変した 7 項目③基本属性：性別、年齢であった。**本調査**愛着スタイル(2次元・4分類)ごとの愛着行動と主観的安全性の関連：大学生 246 名に無記名式質問紙を行った。質問紙の構成は①愛着行動：中尾・加藤(2006b)の『成人愛着行動尺度(AABS: Adult Attachment Behavior Scale)』21 項目②主観的安全性予備調査で得た『安全欲求充足尺度』31 項目。③愛着スタイル(2次元・4分類)：中尾・加藤(2004a)の『親友版 ECR』26 項目④愛着スタイル：Bartholomew & Horowitz(1991)の『関係尺度(Relationship Questionnaire)』4 項目⑤基本属性：性別、年齢であった。

**【結果と考察】** **予備調査**安全欲求尺度を改変した項目である 24 項目、新しく追加した 7 項目、計 31 項目になった。安全欲求充足尺度は 28 項目 1 因子であり、十分な信頼性が確認された。安全欲求充足尺度の項目に関して、各愛着行動に対する安全欲求充足項目(安全欲求尺度項目を改変した上位 7 項目)の回答数が多かったことから、中尾・加藤(2006a)の安全欲求尺度項目を一部改変した全 24 項目を使用するのは妥当である。また、自由記述から得られた 7 項目に関して因子負荷量の値が高かったことから安全欲求充足尺度項目として使用することは妥当であると考えられる。**本調査****愛着スタイルと愛着行動の関連**：親密性回避が低いほど直接的愛着行動を行うこと、見捨てられ不安が高いほど直接的愛着行動・間接的愛着行動を行うことが明らかになった。見捨てられ不安が高い人は他者からの拒絶を恐れるあまりにネガティブな関わりを行う側面、他者からの賞賛を得て自己観を補足するためにポジティブな関わりを行う二つの側面があると推測される。**愛着行動と主観的安全性の関連**：直接的愛着行動は安全欲求充足に正のパスが、間接的愛着行動は安全欲求充足に有意な負のパスが示された。このことから、直接的愛着行動と間接的愛着行動によって主観的安全性得点が異なることが明らかになった。＜安定型＞2つの愛着行動を行い、主観的安全性得点が高いことから直接的愛着行動と間接的愛着行動を適切に実施していることが考えられる。＜拒絶型＞直接的愛着行動や間接的愛着行動の得点が各愛着スタイルの中で最も低いことから、他者に愛着行動を行わず主観的安全性が満たされていないことが考えられる。＜とらわれ型＞2つの愛着行動から主観的安全性に有意なパスが示されなかった。劣等感を隠すような関わりを行うが、ポジティブな態度をとることにストレスを感じてしまうことが推測され、主観的安全性が満たされていないことが考えられる。＜恐れ型＞直接的愛着行動から主観的安全性に有意なパスが示された。他者から拒絶されることへの恐怖から親友にポジティブな関わりを行いたいと考えているが、親密な関係を避けて主観的安全性が満たされていないことが考えられる。